



①	②	③
④	⑤	⑥
⑧	⑨	⑩

センダングサのなかま(コセンダングサ、アメリカセンダングサ)

①コセンダングサは道ばたや河原の乾いた場所に、②アメリカセンダングサは、田んぼのまわりなどのやや湿った場所に見られます。

⑤ヌスビトハギ

明るい雑木林に見られます。これをそのまま大きくしたようなフジカンゾウも、同じような場所で見られます。

⑧ダイコンソウ

雑木林の中に見られます。黄色いあざやかな花の後に、もじゃもじゃのひっつき虫があらわれます。茎の下の方につく葉がダイコンの葉に似ているのでこの名前が付けました。

③オオオナモミ

河原の石がゴロゴロした場所や、造成地で見られますが、最近は少なくなりました。場所によっては、もう少し大型のイガオナモミが増えています。

⑥イノコズチのなかま(イノコズチ、ヒナタイノコズチ)

イノコズチは林の中、ヒナタイノコズチは河原や道ばたなど、日当たりの良い場所に見られます。

⑨チヂミザサ

雑木林の中や、庭の日当たりの悪い場所に生えます。イネと同じなかまの草です。

④キンミズヒキ

明るい雑木林に見られます。花は小さいけれどたくさんつき、鮮やかな黄色でよく目立ちます。

⑦ミズヒキ

林の縁のちょっと明るいところで見られます。花は小さいけれど、紅色と白のコントラストが美しく、色はタネになっても残ります。

⑩ガンクビソウ

雑木林の中に見られます。下向きの花が、キセル(昔のたばこを吸う道具)のがんくび(火を付ける先の部分)のような形をしているところからついた名前です。

FIELD GUIDE [自然観察の手引き]

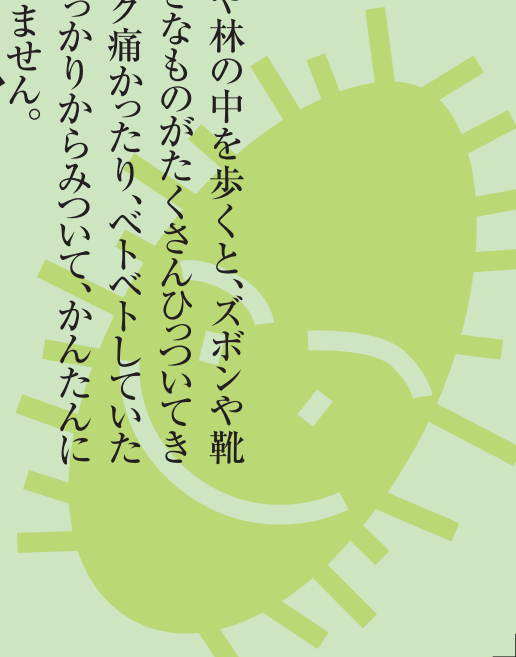
公益財団法人 相模原市まち・みどり公社



ひっつき虫を知っていますか？

秋の河原や林の中を歩くと、ズボンや靴下に何か小さなものがたくさんひっついてきます。チクチク痛かったり、ベトベトしていたり。衣類にしつかりからみついて、かんたんに払い落とせません。

そんなひっつき虫の正体は、草の実です。目を近づけてじっくり見ると、いろんな種類のひっつき虫があつて、からみついたためにそれぞれ面白い形をしているのがわかります。いったいなんのためにひっつくのでしょうか？



文・写真・イラスト ●相模原市立博物館 学芸員 秋山 幸也

発行 ●公益財団法人 相模原市まち・みどり公社

〒252-0236 神奈川県相模原市中央区富士見6-6-23(けやき会館) TEL.042-751-6623

ホームページURL ●<http://www.sagamiharashi-machimidori.or.jp>

ひっつき虫ってこんなにたくさんあるんだ?!

トゲトゲでからみつく

鋭く突き出た「トゲ」や、先がかぎ型に曲がった「つもの」、細かくはえたかたい「毛」などで、動物の毛や、人間の服にくいこみます。

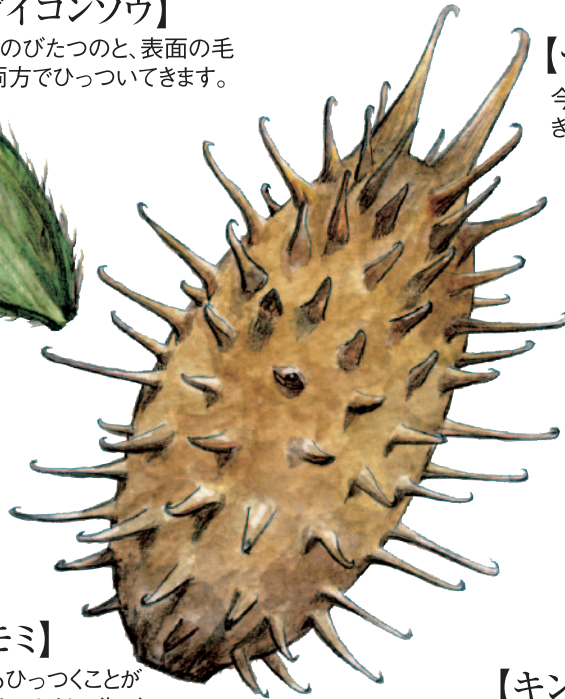
【ダイコンソウ】

長くのびたつのと、表面の毛の両方でひっついてきます。



【センダングサのなかま】

今、もっともたくさん見られるひっつき虫。



【アメリカセンダングサ】

【コセンダングサ】

【キンミズヒキ】

小さいけれど、ひっつく力は強いよ。



【オオオナモミ】

どの方向からでもひっつくことができる形です。さらにトゲの先が曲がっているのが、ひっつきやすさのヒミツ。

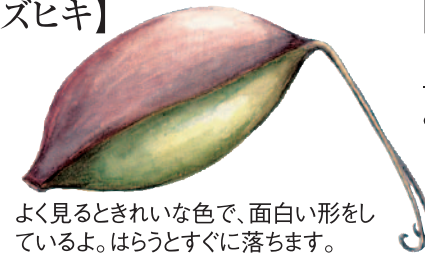


【ヌスビトハギ】

トゲが無いのにひっつく不思議なひっつき虫。表面をよく見ると、ちぢれた細かい毛がびっしりはえていて、強く張り付くようにひっつきます。

植物のタネは、いろいろな方法で、親の植物から離れた場所に分布を広げ、子孫を残そうとします。ひっつき虫は、ほ乳類の毛や、鳥類の羽にからみついて、遠くまで運んでもらう方法を発達させた植物のタネです。ひっつき虫の多くは、秋から冬にかけて見られます。

【ミズヒキ】



よく見るときれいな色で、面白い形をしているよ。はらうとすぐに落ちます。

【イノコズチのなかま】

(イノコズチ、ヒナタイノコズチ) 一度にたくさんひっつくけど、はらうと簡単に落とせます。



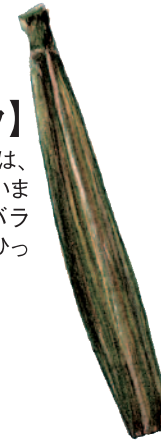
【イノコズチ】

ベトベトでひっつく

タネが実る頃になると、ベトベトした液を出してひっつきます。たいてい細かくてすぐにバラバラになるので、払い落とすのに苦労します。

【ガンクビソウ】

草についているあいだは、きれいなたばになっていますが、細長いタネがバラバラになって、たくさんひっつきます。



【チヂミザサ】

背の低い草なので、靴や靴下によくひっつきます。